

学習指導改善を目指すアンケートデザインと

学習指導経過の事例

藤本敏弘

実践女子短期大学 総合科目部門

1. 序論

第10回の教育評価研究部会で発表した「積極的参加型授業を目指す学習指導事例」の実践活動の経過を報告する。ここでは2004年4月から約20日間隔でアンケートを実施し、その結果を「学習速度の遅い」学生に対する指導改善活動に反映した経過報告をする。なお第10回に発表した学習指導システムモデルをアンケートプログラムの構成の雛形として用いた。従ってアンケートプログラムのシステムは、教授者の指導プロセスと、学習者の学習プロセスおよび学習者の反応に関する行動情報を授業到達目標（以下で目標）にフィードバックするプロセス、に大きく分かれる。学習者の反応を目標と常に比較し、目標との乖離情報を基に、再び教授者の指導メッセージに反映し、学習者へのメッセージ伝達効果を高める事を重視した。同時に学習者に関しては、演習ワークシートを常用し、彼らの言葉で解答する創造・発見型の授業とした。この方法により教授者は演習ワークシートを反応情報源として利用し、アンケートデータの情報を補完することも可能になった。

従来型の授業アンケートでは把握しにくい、指導過程と学習者の心の動きや反応を短期間に捕捉できること、教材や演習ワークシートに学習者の思考方法の改善を促す仕掛けを盛り込むことも可能になった。このように学習者からのアンケートデータを分析的に把握できるので、個別に学習者の状況に見合うアプローチで到達目標に効果的に接近することが、容易になった。

2. 事例の構造

- 2-1 担当科目「情報の科学」のシラバスを、学期を通して毎回の授業に展開した「学習指導案」、その中に明記された学習到達目標（「～が出来るようになる」という目標行動の記述）。
- 2-2 学習指導案で必要な演習ワークシートと他の教材制作
- 2-3 授業の終わりに書かせるアンケートシートの設計と実施
- 2-4 期末に行う課題レポートの書式の設計と実施

3. アンケートの設計仕様

- 3-1 表紙： 名称：アンケートプログラム#04-5-14-0 ；題名（例）「アルゴリズムを学ぶ」
所属，学年，学籍番号，氏名等を明記させる。
- 3-2 質問区分
 - 1.あなたの学習結果についての感想（学習に関する得手不得手を調べる）
 - 2.あなたの学習時の感情傾向（動機付けがどのように醸成されつつあるか）
 - 3.あなたが解説や問題の提示・指導の時に感じたこと（受講の楽しさの評価）

- 4.あなたが解説や問題の提示・指導の時に感じたこと（分かり易さの評価）
- 5.あなたの発言・解答に関して指導者はどんな対応をしたか（反応把握・対応）
- 6.あなたの行動に対する指導者の反応（積極的発言や行動に心情的に応える）

3-3 課題レポートで書かせた学期を通じての受講の感想

4. 学習進度の改善例 質問区分 1

4-1 学習結果から見た得手不得手（学生自己評価）の変化（レーダーチャート） 5/14：6/18：7/9

「情報の科学」選択クラス 受講者数 14名の中で、改善対象になったI学生の事例を図1に示す。

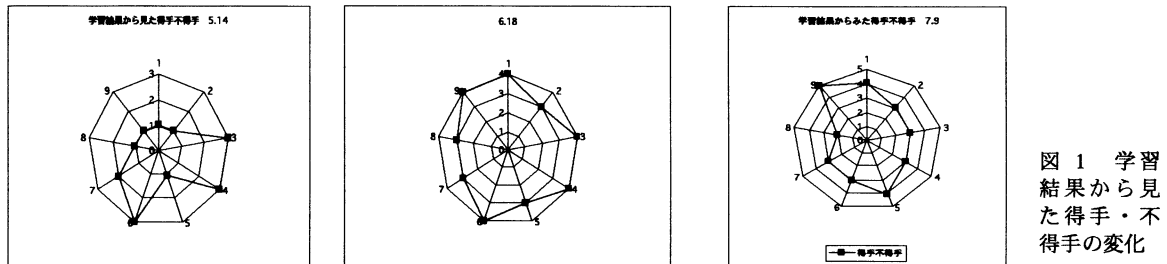


図1 学習結果から見た得手・不得手の変化

なお質問項目は1から9までを円周の番号にした。1:「理解した方法を応用できる」から9:「求めるものは何かが分かる」という指定を行い、半径軸は0（非該当）,1~5のスコア値を表している。

（所見）5/14時点では9:「問題の求めているものが分からず」から6/18ではかなり改善し7/9時点では課題レポートの制作内容ではあるが、課題の求められているものは把握できるようになった。

4-2 到達度試験のクラス平均値に対する割合値の変化

5/14、6/18と7/9のI学生の事例を表1に示す。得点相対値=学生個人の得点/クラスの平均点

到達度試験日	5.14	6.18	7.9
得点相対値	0.66	0.59	0.98
クラス平均点	84（入門で易しい）	67	84（課題レポート）

（所見）新学期からはじめて、5/14のテストから中盤に至り、演習が理解出来るようになり自信を持ち始めた。また課題レポートでは制作に興味を持ち、態度も明るくなり、好成绩をもたらした。

5. 学期を通じての受講の感想例（紙幅の関係から14名の中から2名の例を抽出）

I学生：最初はつまらない授業、しかしだんだん内容が理解でき、とても面白くなった。少しの理解があれば後は楽。熱意をもってゆくりと構えればどんな事柄でも理解できる。

M学生：苦手の計算も何回か練習問題を解いて理解でき、嬉しかった。今まで知らなかった知識で、最後には充足感・達成感を感じることができた。新しい分野を知るときのドキドキ感もまた楽しい。興味を持ったら、この授業を受講してみることをお勧めします。

6. 結論

従来型の短大主催の期末アンケートでも授業は好評であった。今後この仕組みの体系化を進めたい。

7. 参考資料

- 1) 京都大学高等教育研究開発推進センター編「第3回 大学教育研究集会 第10回大学教育改革フォーラム 発表論文集」,P6-7,2004.3